

資料6

健康長寿・笑顔のまち・京都推進プラン
京都市口腔保健推進実施計画「歯ッピー・スマイル京都」
健康長寿のまち・京都食育推進プラン

現行計画における
市民の健康づくりの状況を確認する数値

1

1

1 全体の達成状況

ア 健康長寿・笑顔のまち・京都推進プラン (平成29年度(ベースライン)～令和5年度(目標))	
目標達成・・・15(20.0%)	} 75項目 ※ 以下の「19項目」「23項目」含む
改善傾向・・・15(20.0%)	
変化なし・・・23(30.7%)	
悪化・・・16(21.3%)	
評価困難・・・6(8.0%)	
イ 京都市口腔保健推進実施計画「歯ッピー・スマイル京都」 (平成29年度(ベースライン)～令和5年度(目標))	
目標達成・・・7(36.8%)	} 19項目
改善傾向・・・5(26.3%)	
変化なし・・・4(21.1%)	
悪化・・・3(15.8%)	
評価困難・・・0(0.0%)	
ウ 健康長寿のまち・京都食育推進プラン (平成27年度(ベースライン)～令和5年度(目標))	
目標達成・・・2(8.7%)	} 23項目
改善傾向・・・4(17.4%)	
変化なし・・・8(34.8%)	
悪化・・・5(21.7%)	
評価困難・・・4(17.4%)	

2

2

1 全体の達成状況	
個別の達成状況の見方	
評価項目判定区分	出典
A 目標値を達成している	① 国民健康保険特定健康診査、後期高齢者健康診査（平成28年度、京都市）
B 目標値に達成していないが、策定当初より改善（変化率＞5%）がみられる	② 国民生活基礎調査（平成28年、厚生労働省）
C 策定時から有意性のある変化なし（変化率±5%以内）	③ 3歳児歯科健康診査（令和4年度、京都市）
D 策定時より悪化（変化率＞5%）している	④ 母子健康手帳交付時に実施しているアンケート（令和4年度、京都市）
－ 評価困難	⑤ 施設に対する歯科口腔保健に関するアンケート（令和5年度、京都市）

3

2 栄養・食生活①（達成状況）										
(健康長寿のまち・京都食育推進プラン 重複部分)										
項目		平成29年度 (ベースライン)			令和5年度調べ (最新値)			令和5年度 (目標)	評価 (C: ±5%以内) ※変化率	
①朝食をほとんど毎日食べる市民の割合	3歳児	Ⓐ	H27	93.3%	Ⓔ	R3	94.9%	100%	C 1.71%	
	小学生	Ⓐ	H27	87.1%	Ⓚ	R4	82.5% (参考値)	100%	- -5.28%	
	中学生	Ⓐ	H27	82.3%	Ⓚ	R4	75.4% (参考値)	90%	- -8.38%	
	15歳以上	15歳以上の市民	Ⓐ	H27	80.9%	Ⓛ	R5	80.4%	85%	C -0.62%
		20歳代の男性	Ⓐ	H27	46.1%	Ⓛ	R5	57.5%	70%	B 24.73%
		30歳代の男性	Ⓐ	H27	59.4%	Ⓛ	R5	59.0%	70%	C -0.67%
20歳代の女性		Ⓐ	H27	61.7%	Ⓛ	R5	55.0%	70%	D -10.86%	
②家族や友人と共に食事をする市民の割合		Ⓐ	H27	83.0%	Ⓛ	R5	79.1%	85%	C -4.70%	
③夕食を一人で食べる小・中学生の割合	小学生	Ⓐ	H27	3.0%	Ⓢ	R1	1.2% (参考値)	減少へ	- -60.00%	
	中学生	Ⓐ	H27	8.6%	Ⓢ	R1	3.4% (参考値)		- -60.47%	

4

4

2 栄養・食生活②（達成状況）

（健康長寿のまち・京都食育推進プラン 重複部分）

項目			平成29年度 （ベースライン）			令和5年度調べ （最新値）			令和5年度 （目標）	評価 （C：±5%以内） ※変化率	
			④	H27	49.2%	⑤	R5	52.7%		B	7.11%
④主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上、ほぼ毎日食べている市民の割合			④	H27	49.2%	⑤	R5	52.7%	60%	B	7.11%
⑤「適正体重」の維持や「生活習慣病」の予防・改善のため「適切な食事」や「運動」を継続的に実施している市民の割合			④	H27	73.1%	⑤	R5	72.3%	80%	C	-1.09%
⑥肥満・やせの市民の割合	肥満	40歳代の男性	④	H27	32.0%	⑤	R5	31.9%	28%	C	-0.31%
		50歳代の男性	④	H27	35.7%	⑤	R5	24.7%	28%	A	A
	やせ	20歳代の女性	④	H27	20.3%	⑤	R5	21.7%	15%	D	6.90%
		30歳代の女性	④	H27	18.9%	⑤	R5	17.5%	15%	B	-7.41%
⑦外食や食品を購入するときに食品の表示（原材料・添加物・栄養成分・産地等）を参考にしている市民の割合			-	-	-	⑤	R5	62.0%	60%	A	A
⑧食べ残しやごみを減らす工夫をする市民の割合			④	H27	59.7%	⑤	R5	56.1%	80%	D	-6.03%

5

5

2 栄養・食生活③（達成状況）

（健康長寿のまち・京都食育推進プラン 重複部分）

項目	平成29年度 （ベースライン）			令和5年度調べ （最新値）			令和5年度 （目標）	評価 （C：±5%以内） ※変化率	
	⑨	H27	360店	⑩	R4	594店		B	65.00%
⑨食の健康づくり応援店の登録店舗数	⑨	H27	360店	⑩	R4	594店	1,000店	B	65.00%
⑩食育指導員の年間総活動回数	⑨	H27	1,171回	⑩	R4	967回	1,500回	D	-17.42%
⑪京都の食文化（行事食やおきまり料理など）を認知している市民の割合	④	H27	52.9%	⑤	R5	54.2%	65%	C	2.46%
⑫「京の旬野菜」供給量	⑨	H26	10,546t	⑩	R2	10,933t	11,000t	C	3.67%
⑬地元の農産物を日頃から購入するようにしている市民の割合	④	H27	55.9%	⑤	R5	53.0%	65%	D	-5.19%

6

6

2 栄養・食生活④（まとめ）

（健康長寿のまち・京都食育推進プラン 重複部分）

- ・ 40歳代男性は3割以上が肥満であり、引き続き改善に向けた取組が必要である。
- ・ 20歳代女性のやせは、増加傾向であり、多様な情報源から正しい情報提供が行われるよう周知啓発していく必要がある。
- ・ 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている市民の割合は、改善傾向であった。
- ・ 朝食を毎日食べている20歳代男性は増加したものの、15歳以上の市民全体としては、改善が見られなかった。
- ・ 京都の食文化の認知については、変化が見られなかった。
- ・ 引き続き、状況を注視しつつ、市民が継続的に望ましい食生活を実践できるよう情報提供を行っていくとともに、実践を支える環境づくりにも注力していく必要がある。

7

7

3 歯と口の健康①（達成状況）

（京都市口腔保健推進実施計画「歯ッピー・スマイル京都」 重複部分）

項目	平成29年度 (ベースライン)			令和5年度調べ (最新値)			令和5年度 (目標)	評価 (C: ±5%以内) ※変化率		
	評価	目標	実績	評価	目標	実績		評価	変化率	
⑭むし歯のある市民の割合	3歳児	◎	H28	14.1%	◎	R4	12.1%	10%以下	B	-
	6歳児	Ⓓ	H28	39.5%	Ⓝ	R4	28.8%	35%以下	A	A
⑮3歳でフッ化物歯面塗布を受けたことのある市民の割合	Ⓔ	H28	46.8%	ⓧ	R4	52.5%	55%以上	B	12.14%	
⑯12歳の市民における永久歯の1人平均むし歯数	Ⓓ	H28	0.57歯	Ⓝ	R4	0.37歯	0.5歯以下	A	A	
⑰3歳で不正咬合等がみとめられる（咬み合わせや歯並び等で経過観察が必要と判断された）市民の割合	◎	H28	14.6%	◎	R4	15.5%	10%以下	D	5.90%	
⑱歯間清掃用具（デンタルフロスや歯間ブラシ等）を使用している市民の割合	妊娠中の女性	Ⓕ	H28	51.9%	Ⓜ	R4	64.3%	60%以上	A	A
	40歳代	Ⓖ	H28	52.0%	Ⓗ	R5	56.0%	60%以上	B	7.69%
	60歳代	Ⓖ	H28	48.2%	Ⓗ	R5	56.5%	55%以上	A	A

8

8

3 歯と口の健康②（達成状況）

（京都市口腔保健推進実施計画「歯ッピー・スマイル京都」 重複部分）

項目	平成29年度 （ベースライン）			令和5年度調べ （最新値）			令和5年度 （目標）	評価 （C：±5%以内） ※変化率	
	④	H28	3.1%	⑤	R4	3.2%		C	3.23%
⑱中学生で歯ぐきの状態について専門家の診断が必要と判定された市民の割合	④	H28	3.1%	⑤	R4	3.2%	減少	C	3.23%
⑳20歳代で歯ぐきに炎症所見のある市民の割合	⑥	H28	25.8%	⑩	R4	21.9%	20%以下	B	-15.12%
㉑進行した歯周炎を有する市民の割合	⑥	H28	33.3%	⑩	R4	30.5%	25%以下	B	-8.41%
	⑥	H28	33.3%	⑩	R4	51.3%	30%以下	D	54.05%
㉒60歳代で咀嚼良好な（なんでもよく噛んで食べることができる）と回答した市民の割合	⑥	H28	70.5%	⑪	R5	70.9%	80%以上	C	0.57%
㉓60歳代で24歯以上の自分の歯を有する市民の割合	⑥	H28	46.0%	⑪	R5	60.5%	60%以上	A	A
㉔70歳以上で20歯以上の自分の歯を有する市民の割合	⑥	H28	39.9%	⑪	R5	49.1%	45%以上	A	A

9

9

3 歯と口の健康③（達成状況）

（京都市口腔保健推進実施計画「歯ッピー・スマイル京都」 重複部分）

項目	平成29年度 （ベースライン）			令和5年度調べ （最新値）			令和5年度 （目標）	評価 （C：±5%以内） ※変化率	
	⑧	H27	80.0%	⑧	R5	73.3%		D	-8.38%
㉕障害者（児）入所施設における定期歯科健診の実施率	⑧	H27	80.0%	⑧	R5	73.3%	90%以上	D	-8.38%
㉖要介護高齢者入所施設（介護老人福祉施設・介護老人保健施設）における定期歯科健診の実施率	⑧	H27	54.5%	⑧	R5	52.4%	60%以上	C	-3.85%
㉗20歳以上でこの1年間に歯科健診を受けている市民の割合	⑥	H28	47.4%	⑪	R5	46.6%	65%以上	C	-1.69%
㉘18歳以上で「丁寧に歯をみがく」ことを意識している市民の割合	⑥	H28	63.8%	⑪	R5	73.7%	70%以上	A	A

10

10

3 歯と口の健康④（まとめ）

（京都市口腔保健推進実施計画「歯ッピー・スマイル京都」 重複部分）

<基本的な取組① 口腔機能の育成・低下予防>

- ・ 高齢期の歯の本数は、口腔機能の維持及び、それまでのむし歯や歯周病の疾患予防の取組の評価の一つの目安となりうる。
- ・ 高齢期の自分の歯の本数としては、自分の歯でだいたいものを食べることのできる本数を維持している方が増加していると考えられる。
- ・ 高齢期の口腔機能の低下予防について、咀嚼良好者の割合は大きな変化がみとめられなかったが、高齢期の歯の本数を維持している方の増加を考慮すると市民の口腔機能の状況は上向きの状況にあると考えられる。
- ・ 子どもの口腔機能の育成に関しては、3歳児の不正咬合の割合に悪化傾向がみとめられたが、年度によって増減があり、また国も同様に悪化傾向であり、設定した指標が適切であったかどうかも含め、検討が必要と考えられる。

11

11

3 歯と口の健康⑤（まとめ）

（京都市口腔保健推進実施計画「歯ッピー・スマイル京都」 重複部分）

<基本的な取組② むし歯予防と歯周病予防>

- ・ 子どものむし歯予防については、3歳児の直近の動向の変化には注意が必要なものの、経年的にはいずれの年齢層でもおおむね減少傾向にあると考えられる。
- ・ 現行では、成人期以降のむし歯の状況の直接の指標は設定していない。
- ・ 中学生の歯ぐきの状況については、大きな変化はないが、おおむね全国値より少ない状況である。
- ・ 成人期以降の歯周病の状況については、国の直近データも不足しており、状況の判断が難しいが、とりわけ60歳代で進行した歯周炎のある市民の割合が悪化しており、40歳代についても大きな改善はみとめられず、懸念される。

12

12

3 歯と口の健康⑥（まとめ）

（京都市口腔保健推進実施計画「歯ッピー・スマイル京都」 重複部分）

<基本的な取組③ かかりつけ歯科での定期的な歯科健診>

- ・ 全国データが不足しており比較が難しいが、市民の状況としては、20歳以上での過去1年間に歯科健診を受診している割合が減少しており、コロナ禍の影響を加味しても課題である。
- ・ 障害者（児）や要介護高齢者の入所施設での定期的な歯科健診の実施率については、計画当初時点と比較し、いずれも減少した。一部コロナ禍の影響もうかがえ、注視が必要である。

各課題に応じて、引き続き、かかりつけ歯科での定期的な歯科健診・歯科受診につながるよう啓発等に取り組んでいく。

13

13

4 身体活動・運動①（達成状況）

項目		平成29年度 (ベースライン)			令和5年度調べ (最新値)			令和5年度 (目標)	評価 (C: ±5%以内) ※変化率		
㊸日常生活において歩行又は同等の身体活動を1日1時間以上実施している市民の割合	40～64歳	男性	①	H28	43.8%	㊹	R3	45.9%	53.00%	C	4.79%
		女性	①	H28	46.2%	㊹	R3	46.1%	54.00%	C	-0.22%
	65歳以上	男性	①	H28	56.8%	㊹	R3	51.1%	68.00%	D	-10.04%
		女性	①	H28	55.6%	㊹	R3	51.2%	65.00%	D	-7.19%
㊸運動習慣者(30分・週2回の運動を1年以上継続している市民の割合)	40～64歳	男性	①	H28	36.2%	㊹	R3	36.8%	47.00%	C	1.66%
		女性	①	H28	30.7%	㊹	R3	30.3%	41.00%	C	-1.30%
	65歳以上	男性	①	H28	52.3%	㊹	R3	50.4%	63.00%	C	-3.63%
		女性	①	H28	45.2%	㊹	R3	46.6%	52.00%	C	-3.10%

14

14

4 身体活動・運動②（達成状況）

項目		平成29年度 (ベースライン)		令和5年度調べ (最新値)		令和5年度 (目標)	評価 (C: ±5%以内) ※変化率			
①運動を定期的（週2回以上）に行っている市民の割合	青年期（15歳～24歳）	男性	① H29	40.5%	① R5	61.0%	45.50%	A	A	
		女性	① H29	37.4%	① R5	27.5%	42.40%	D	-26.47%	
	壮年期（25歳～44歳）	男性	① H29	19.8%	① R5	25.4%	24.80%	A	A	
		女性	① H29	15.8%	① R5	23.1%	20.80%	A	A	
	中年期（45歳～64歳）	男性	① H29	25.8%	① R5	42.5%	30.80%	A	A	
		女性	① H29	22.7%	① R5	26.1%	27.70%	B	14.98%	
	高齢期（65歳以上）	男性	① H29	29.4%	① R5	43.8%	34.40%	A	A	
		女性	① H29	25.4%	① R5	38.1%	30.40%	A	A	
②ロコモティブシンドロームを知っている市民の割合 (青年期以上) *「言葉も意味も知らない」と答えた市民以外の割合		①	H29	40.4%	①	R5	40.6%	80.00%	C	0.50%
③ロコモティブシンドロームを知っている市民の割合 *「言葉も意味も知らない」と答えた市民以外の割合	青年期（15歳～24歳）	①	H29	27.4%	①	R5	22.9%	55.00%	D	-16.42%
	壮年期（25歳～44歳）	①	H29	35.9%	①	R5	32.2%	70.00%	D	-10.31%
	中年期（45歳～64歳）	①	H29	41.9%	①	R5	43.8%	80.00%	C	4.53%
	高齢期（65歳以上）	①	H29	45.6%	①	R5	44.9%	90.00%	C	-1.54%
④ロコチェック7項目のうち1項目以上に該当すると回答した市民の割合		①	H29	56.3%	①	R5	67.6%	51.30%	D	20.07%

15

15

4 身体活動・運動③（まとめ）

- 定期的な運動（週2回以上）を行っている市民の割合は、全体的にみるとやや増加傾向にあるが、女性については、青年期で減少傾向となっており、男性と比較して全体的に低い傾向がある。また、男女とも壮年期の年齢層が他の年齢層より低い傾向にある。
- 定期的な運動を行っていない理由として、R3アンケートでは「コロナ禍だから」との回答が目立ったが、R5アンケートでは一部高齢者層にその傾向があるもののコロナ禍の影響は減少したと考える。
- また、15～24歳の女性で「めんどうだから」「取り組むきっかけがないから」との回答が高い割合を占めており、25～44歳は男女共通して「時間がない」との回答が目立った。
- 時間が確保しづらい世代においても展開でき、かつ、どの年代でも日常生活の中で気軽に取り入れられる「歩行」等をテーマとした市民ぐるみの運動「+1,000（プラスせんぼ）」の取組を、さらに進めていくことが必要である。

16

16

5 こころの健康、喫煙、飲酒①（達成状況）

項目		平成29年度 (ベースライン)			令和5年度調べ (最新値)			令和5年度 (目標)	評価 (C: ±5%以内) ※変化率	
		⑧	H27	16 (230人)	①	R3	14.4 (209人)	14.4 (200人以下)	B	-10.00%
⑳ 京都市における自殺死亡率* (自殺者数) ※人口10万人あたりの自殺者数										
㉑ 喫煙する市民の割合	未成年者 (13~19歳)	㉒	H25	2.3%	㉓	R5	0.0% (参考値)	0%	-	-
	妊娠中の女性	㉔	H28	3.9%	㉕	R4	3.1%	0%	B	-20.51%
	出産後の女性	㉖	H28	4.9%	㉗	R4	4.7%	0%	C	-4.08%
	成人男性	㉘	H28	27.0%	㉙	R4	21.2%	16%	B	-21.48%
	成人女性	㉚	H28	9.9%	㉛	R4	6.2%	7%	B	-37.3%

17

17

5 こころの健康、喫煙、飲酒②（達成状況）

項目		平成29年度 (ベースライン)			令和5年度調べ (最新値)			令和5年度 (目標)	評価 (C: ±5%以内) ※変化率	
		㉜	H28	15.3%	㉝	R4	14.6%	0%	C	-4.58%
㉞ 乳幼児の家庭内における受動喫煙の機会										
㉟ 飲酒する市民の割合	未成年者 (15~19歳)	㉠	H25	19.5%	㉡	R5	4.8% (参考値)	0%	-	-
	妊娠中の女性	㉢	H28	5.9%	㉣	R4	4.2%	0%	B	-28.81%
㉤ 生活習慣病のリスクを高める 量を飲酒している市民の割合 (1日当たりの純アルコール 摂取量が男性40g以上、女性 20g以上)	成人男性	㉥	H28	13.7%	㉦	R3	16.4%	12.00%	D	-19.71%
	成人女性	㉧	H28	9.2%	㉨	R3	12.3%	8.00%	D	33.70%

18

18

5 こころの健康、喫煙、飲酒③（まとめ）

○ 喫煙

- ・ 喫煙率については、男女ともに減少している。全国値と比較しても減少幅は大きく、値も低い水準で推移しており、一定の啓発効果があったと推察される。
- ・ 一方、喫煙者ゼロを目指す未成年者や妊産婦の喫煙については、全体の喫煙率の減少と比較すると経年傾向としては減少しているとはいえない。
また、乳幼児の家庭内における受動喫煙の機会も経年傾向としてやや減少傾向であるものの、目標値との差が大きく課題である。
- ・ 引き続き、未成年者や妊娠中の喫煙による健康へのリスク等、ライフステージ別の保健指導を実施するとともに、受動喫煙による害などへの正しい知識の普及啓発が必要であると考ええる。

○ 飲酒

- ・ 生活習慣病のリスクを高める量の飲酒をしている市民の割合は、経年傾向としては減少しているとはいえず、特に女性においては、やや増加傾向にある。令和2年度から令和3年度にかけて男女ともに増加している。
- ・ 引き続き、多量飲酒による生活習慣病発症リスクの増加と適正飲酒の必要性について啓発していく必要があると考ええる。

19